

第1回笠岡市総合計画審議会議事要点録

- 日 時：平成28年9月26日（月）10：00～11：40
- 場 所：笠岡市役所本庁舎3階 第1会議室
- 出席委員：17名
浅野委員，遠藤委員，大嶋委員，大山委員，藏本委員，小林委員，齋藤（永）委員，齋藤（一）委員，谷川委員，玉置委員，鳴本委員，西村委員，野本委員，長谷川委員，原田委員，東山委員，三谷委員，
- 欠席委員：1名 水野委員
- 事務局職員：岡本副市長，水田企画政策課長，村上
- 内 容：下記のとおり

1 委嘱書の交付

市長が，委員名簿順に各委員に委嘱書を手渡して交付した。

2 市長あいさつ

笠岡市が直面している現状をみなさん本当に実感していただいていることと思います。市の財政は厳しい状況にあります。一般財源が，150億くらいしか今はありません。

今日言いたかった1点目は，笠岡市の人口規模は昭和35年に北川村を合併した時に最大の7万3千人になりまして，それ以降はずっと減少を続けています。日本は2008年が人口規模のピークですが，笠岡市は1960年がピークでそれから人口はずっと減り続けている。これでは税収も減るわけです。だからしっかりと企業を誘致したり働く場所を作ったりと，税収が増えるような策をどんどん打っていかねばいけなかったわけですが，それがあまりできていない。その結果，私が市長であり続けても来年あたり5万人を切るかもしれないという状況になっています。

2点目は，笠岡市は合併をしてこなかったということです。平成の大合併で井原や浅口市は合併をしてきたために，国は交付金を減らさないで維持してきたわけです。だから合併をすることによって合理化が進み，コストは下がっているため，自然にお金が貯まりま

す。合併しなかった笠岡市は財政調整基金が少ない。

ただ我々は前に向かって行かなければいけないんですから、そのための計画がこの第7次総合計画でありますことを認識していただければありがたい。したがって何をしなければならぬかはみなさんお分かりだと思いますけど、稼がないといけないということです。税収が増えるための投資をしていかなければならない。例えば、笠岡でも大学を誘致するというのを私も言っているわけです。人が集まる社会を作らなければならぬ。それで、コストを削減しながらできるだけみなさんに平等に幸福感を味わっていただくまちを作っていかなければいけない。そのためには稼がなければならぬんです。これだけの条件があるまちをしっかりと活性化させて、稼いでそれをまた皆さんにお返しするという循環をやり続けんといかんということです。そのための8年間の計画を作っていただきたい。

しっかりと財源を確保するために何ができるか、私は今3つの骨として、昔賑やかだった笠岡を一本の背骨にしようとして笠岡駅周辺の再開発をあげさせていただいています。それから、国でも小中一貫校がどんどん増えています。笠岡市でも1校やってみようかという計画を私も作りました。それで子供達に小中9年間で笠岡市の地元愛を育むような教育をしていくことも大事かと思えます。3つ目は住宅開発をしていこうということです。また、篠坂パーキングエリアにスマートインターチェンジの出入口を置くことも国と相談させてもらってます。道を整備することによって住宅としての価値を上げる。そういう住みやすい環境に投資することによって、笠岡に人が集まってくるという環境を作れるんじゃないかと。ただしそのためには財源がいるわけです。そのための長期的な財源を、企業誘致により税を上げていくということもあるでしょうし、短期的にみればふるさと納税に私は力を入れています。そういうことも併せて、短期的に稼ぎながらしっかりとまちづくりに投資していき8年後を見据えていきたいと考えています。みなさん力を貸していただきたい。結果が全てです。結果を出すために私が市長になったわけですから。どうぞ力を貸していただけますようよろしくお願いします。

3 自己紹介

座席順に自己紹介を行った。

4 会長及び副会長の選出

委員の互選により、以下のとおり決定した。

会長 小林 正和 委員

副会長 大嶋 元義 委員

席移動後、会長及び副会長から簡単にあいさつをいただいた。

5 諮 問

市長から小林会長に、第7次笠岡市総合計画について諮問がなされた。

＜市長退席＞

6 議 事

(1) 会議運営に関する事項の確認について

会長から、会議運営に関することについて提案がなされ意見を求めたが、特に意見はなく、原案どおりに合意・確認された。

①審議会の公開について・・・審議会は原則公開とする。

②会議録取り扱いについて・・・会議録は要点筆記とし、会議録の確認は会長に一任。

会議録については、公開するにあたって、特定の個人や団体に不利益が生じる記述以外は原則公開する。

(2) 第7次笠岡市総合計画策定方針及びスケジュールについて

資料に基づき、策定方針案と策定スケジュールについて事務局から説明。

(3) 市長あいさつや事務局の説明を受けての委員意見

＜意見の要旨＞

浅野委員：これから何らかの形で人口を増やしていかないといけないと考えている。どのようにしたら1人でも多く自分たちの地域に住んでいただけるのか、この地域に足を運んでいただけるのか、活性化につながっていくのかというところをしっかりと勉強させていただきたい。

遠藤委員：人口減少等はどうしようもなく、これを止めるわけにはいかない。これを緩やかにしながら生きたまちづくりをしていくことが、これから私達に与えられた急務だと思う。できることから一步一步、その中で最大限努力していただいて笠岡に少しでも協力できたらなというのが率直な意見。

大山委員：女性が活躍するためには、それだけの下地がないとなかなか難しいというのを感じている。親に頼れないものは保育園とか幼稚園とかそういう面で充実したものがないと、女性が本気になって力を発揮していくのは難しい面があるのかなと感じている。もう1つは教育に関わっていく中で、よく勉強ができると地元から出ていく、しっかり給料がもらえるような仕事をしようと思うと外に出て行ってしまふ、勉強を

あんまりさせ過ぎたら困ると言われたことがあった。雇用拡大というか、しっかりした企業や働く場所があるなら出ていくことは無いのにと感じている。

藏本委員：議会基本条例で総合計画は議決事項であり、重い責任がある。夢だけを追っていくことはできないが夢は持たなくてはいけない、そのために財政運営をどういう風にやっていくのか、厳しい目を常に持つのが私達の使命である。その中で 2025 年問題という高齢化のピークを迎え、その後 20 年間は高齢化社会が続いて行くその間に、近隣の井笠圏がどうやって手を繋ぎ合って維持し、持続しながら幸せな状況で夢を持っていけるか、常に念頭に置かなければならない。財政等を投入していくからには今までのような投入の仕方ではなく、効果的な投資を将来において義務的経費をふくらまさないように考えていかないといけない。

齋藤(永)委員：幼稚園の預かり保育を進めて行ってほしい。短時間非正規雇用のパートの主婦は、高いお金を出して保育園に預けて働くと、お金のために働いているのか子供を預ける為に働いているのか分からなくなるくらいお金がかかる。他にも農林水産物を加工輸出する施設を笠岡市でも作っていただきたいとか、時代に適応した臨機応変な農地運用を農業委員会に求めたいとか、道の駅周辺に農家レストランを作っていただきたいとか、笠岡干拓にバイオマス発電施設を、貧困家庭対策、市営プールの修繕、たくさんある。お金が限られた市民の税金なので全部が全部と言うのは難しいと思うが、まずは笠岡市の若いお母さん方、お父さん方を支援する方策をお願いしたい。

齋藤(一)委員：一市民としてまた若い子育て世代の代表として、様々な今後 8 年間の計画にご意見させていただければなど改めて感じている。小林市長の公約の 7 本柱を見て、過去の市議会の議事録を読み返したところ、過去何十年にもわたって議会のほうも市民の代表としてこの 7 つのことについて重ね重ね執行部に要望してきたことが多くある。そういった中で実現に至らず今に至っているが、新しく市長になられた小林市長がこれを実行に移すため総合計画に盛り込まれる決意であり、何としてもわくわくするような計画にしていきたい。反面、笠岡市の総合計画に盛り込む 7 本柱も笠岡市民の反対の声もあるかと思うので、実現可能な計画になるような着眼点も大事にしながらか参加したい。

谷川委員：仕事柄、相続に関して空き家等で所有者もよく分からないような財産について、どういった取組が必要か意見を出させていただけたらと思う。それから高齢者の詐欺の報道がなされているが、治安の観点からそういうところの対策や、認知という判断能力を欠いた人にどういった対応をしていくか、もう少し大きい視点から、備後圏域で消費行政に関してどういった視点で行っていくかを考えていきたい。

玉置委員：私は玉野市から仕事の関係で移住してきたが、笠岡市には日本でも最初に作られた認知症の施設があり、全国からたくさんいらっしゃる。笠岡市の財産だと思う。2025年問題もあり認知症の方も増えるので、みんながよりよく住めるまちづくりとしてソフト面も充実させていく必要性を感じている。もう1つはパートで働きたい母親の支援を市にしてもらいたいなという思いもある。子ども劇場さんが間に入っていることも笠岡市の財産だと思う。笠岡市は住みやすく農業も漁業もあるが、防災面とゴミについては意識が低いように思う。

鳴本委員：笠岡市の有効求人倍率は今1.4になっており、働く場所はあるんじゃないの？と言われるが、優秀な若いサラリーマンが年間所得が何百万円ともらえる企業がない。私達は商工会議所の一員として地域の商工業の発展をはかっているが、毎年30社から40社が廃業され、会員数もどんどん減っている。色々な施策の中で笠岡市に支援をいただきながら創業支援をしているが、なかなか新しい事業を興そうという人も現れない。新しく市長になられて新しい施策も考えられて企業誘致も大学の誘致もいいな、住宅団地も作りたいなと色んなことを仰っているが現実には難しいと思う。平成37年度にどのあたりの人口にもっていけるのかということがこの第7次の基本になると思う。

西村委員：今日感じたことは若いメンバーが多いということ。年をとっても夢と希望はなくなったらいけないと思う。年をとってもいつまでも若いという笠岡市になってもらいたい。人口のことはもちろんだが、住んでいる私達が楽しく健康で長生きしていく、そのためには遠くにいる孫たちが企業誘致によって帰ってきて一緒に住みたいなという思いをいつも持っている。

野本委員：市長が色々な事を言っているが、人が住もうとすると利便性を高めるしかない。雇用と税収をあげるには産業の活性化しかないが、企業誘致といってもそんな簡単なものじゃない。笠岡市の中には色々な産業がある。地場産業をどうやって活性化させるか、これまでに利便性を高めるとか産業の活性化には色々な事例がある。そういったものを参考にして笠岡市独自のものを作っていくとどうしようもない。それは、最終的には市役所の仕事でやっていかざるを得ないこと。

長谷川委員：仕事柄、子供達が笠岡を出て行くのをしみじみと感じる。今後増えることは無いと思うが、維持していかないといけないなとは感じている。私は子供が3人いるが、子供達が大きくなった時に今と同じように笠岡で暮らすのが幸せだなと思えるような笠岡であっていただきたい。比較的若い人たちの参加が少ないと感じるが、今後若い人たちにもどんどん入っていただけたらいいなと思っている。

原田委員：民生委員として地域を回る中で、たくさんの方が認知症で、それを解決して

いくための担い手が少ない。障がい児の施設で40年近く働いてきたが、「発達障害という笠岡」と言われるくらいだった。あの頃を思い出しながら笠岡のモデルをつくっていくことがとてもいいんじゃないのかなと思う。それに子供は支援してもらえが、親御さんは忘れられる。市長はエリートエリートと言われるが、そういう子供のことも考えていただきたい。そして、そういう子供達のお父さんお母さんを支えることが子供の育ちを支えることだと思う。人を大切に作る市であればいいと思う。

東山委員：未就学児を対象とした母親クラブのまとめ役をしている。年をとって子供を産んだ母親は、子育てしながら自分の親の介護が必要になって、仕事を辞めないといけなかったりする。出産育児で仕事を辞めて、その後の仕事復帰でも笠岡で仕事を見つけるのは難しいし、介護で仕事を辞めなくていいような地域でのサポートがあればいいと思う。女性が働き続けることのできるまちが望ましい。若者会議や地域おこし協力隊、まちづくり協議会と市民が参加できるものがたくさんできていて盛り上がってきていると感じるが、いっぱいありすぎてよく分からないので、HPなどでこういう団体がこういうことをしているとすぐ分かるようにすると、市民がみんなで盛り上げられると思う。あと、笠岡市も自主学習とか夏休みの宿題があるが、里庄や井原の方が笠岡より多かったりする。母親やこれから結婚しようとする女性が何を求めるかという時に、教育がしっかり提供されることが大きなポイントだと思う。水も、安さも大事だが安全安心を考えてもらいたい。観光面でも、予算をかけずにしていただけたらいいと思う。

三谷委員：先程市長からお話があったように、市長就任後、初めて小中一貫校の話があった。今まさに総合教育会議が2回開かれ、そこで笠岡の規模でそういうものが必要なのか検討中である。詳しいことは決まっていないので、この会議が進む中にご説明できる時期がきたら、皆さんのご意見をききながらご説明させていただきたい。

副会長：一番笠岡市にないものは、子供が参加して笠岡の色々なことを経験するところ。これが一番の欠点だと思う。例えば徳島では、幼稚園保育園の運動会で授業の一環として阿波踊りを踊っている。だから、78万人ほどしかいない徳島県に3日間で350万の人が来る。非常にいいことなので、私も地元の小学校へお願いに行き、盆踊りを体育の授業としてやってもらっている。子供のそういう教育は大事。特にお願いをしたいのはスポーツ施設。笠岡にはグラウンドがあちこちに散らばっている。子供の時から笠岡になじむような施設を作っていただけたらと思う。

会長：こういう風に活発な意見を出していただくというのが本当に良い。審議会はみなさんの意見が報告書に多く反映される。どんなことでも結構ですので話をしてほしい。できるだけみなさんの発言をいただきたいし、当てていくかもしれない。分からない

からどうしようかと思わないでいただきたい。審議会の発表が大きく変えていける。
市が作っているものよりもっといいものができる。

7 その他

次回の審議会は11月24日（木）午後1：30から開催予定